

「第2回 モアシヨロ原野螺湾足寄停車場線 モアシヨロ原野地区の環境影響に関する懇談会」
議事概要

日時：平成29年3月17日（金）13：00～14：50

場所：とちか館 鳳凰の間

出席者：《有識者構成員》

氏名	分野	所属等
加賀谷 誠一（座長）	地域防災、都市計画	北海道大学名誉教授
柳川 久	動物類全般	帯広畜産大学副学長
千嶋 淳	鳥類	元日本野鳥の会十勝支部副支部長
持田 誠	植物	浦幌町立博物館学芸員
石垣 章	淡水魚類	十勝川の生態系再生実行委員会
澤村 寛	地質	足寄町動物化石博物館館長

《有識者構成員欠席者》

氏名	分野	所属等
山本 純郎	鳥類	希少鳥類研究者

《オブザーバー》

氏名	所属等
村石 靖	足寄町役場経済課主査
安藤 祐樹	環境省釧路自然環境事務所 阿寒湖自然保護官事務所自然保護官
三間 武	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署主任森林整備官

【 懇 談 会 議 事 概 要 】

1. 帯広建設管理部事業室長より開会挨拶
2. 構成員・オブザーバーの紹介、これまでの経過説明
3. 平成 28 年度調査計画について説明
 - 3.1 動物調査（哺乳類、両生類・爬虫類、陸上昆虫類）説明
 - 3.2 鳥類調査説明
 - 3.3 植物調査説明
 - 3.4 魚類調査説明
 - 3.5 地質・水質調査説明
 - 3.6 景観調査説明
4. 調査結果及び学識経験者の意見を踏まえた道路設計の説明、平成 29 年度の調査計画と今後の事業計画及び懇談会の運営についての説明。
5. 意見交換会
 - 5.1 柳川 久
 - ①中大型の哺乳類はいるべき種類が妥当に、ばらつきがなく均等にいる。
 - ②中大型の哺乳類の分布を考えると今回の道路建設で生育区域を分断する恐れはほぼない。
 - ③ロードキルについては、車のスピードや台数に左右され、それがわかってから考えれば良い。
 - ④大型、中型哺乳類について、格段対策案を練る必要はないと思われる。
 - ⑤小型の哺乳類、両性類については影響がある恐れがあると思われるので、来年度計画に盛り込む必要がある。
 - ⑥哺乳類に関して言えば、今回の道路の変更はそれほど大きくは関与しないと思われる。
 - 5.2 千嶋 淳
 - ①北米などでは景観生態学的な鳥の研究が進んでおり、道路ができると林縁効果として種類相や繁殖成績影響を及ぼすことが知られている。
 - ②他の分類群も含め、景観生態学的な見地に関する文献のレビューを行い、今後の計画を進めた方が良い。
 - ③阿寒界限ではキンメフクロウとかスズメフクロウと思われる記録もある。夜間鳥類は、例えば IC レコーダーを複数個所に設置するなどの調査も必要なのではないか。
 - ④事後モニタリングを毎年は無理でも 3 年に 1 回は行い、10 年後 20 年後に評価できるようなシステムを作る事が大事。
 - 5.3 持田 誠
 - ①ルート上にアカンカサスゲ、フタバラン、イチヨウランが点在するが、特にこの地域に特有なものではなく、白糠丘陵全体に見られる種である事から、影響は少ないと思われる。

- ②春季の植物相の把握が望まれる。
- ③ヒカリゴケと同所的に生育する他の蘚苔（コケ植物）への影響も考える必要がある。
- ④環境アセスメント事業においては維管束植物が中心だが、本州の調査そして道内でも標津湿原の調査では、蘚苔類も加えられるようになってきている。
- ⑤蘚苔類の調査は専門性が高いため、専門研究員を呼んで現地を見ていただき、今後の影響について検討する必要がある。
- ⑥蘚苔類は同定のポイントになる「朔」というのが一般に夏秋となるため、6月の調査では同定できない種が出てくる可能性もあるため、調査時期の検討をすべき。
- ⑦工事後に道路の幅員が広がり、光環境が変化することにより、森林内の植生に影響することが予測される。
- ⑧底生動物だけでなく、植物からも湧水の確保は必要。

5.4 石垣 章

- ①今回の工事では、直接川に入り工事を行う箇所が一か所のみであるため、当該箇所に留意し施工すれば問題ないと思われる。
- ②魚の住めない水質だったはずが、いつの間にか pH7.0～7.5 という普通の魚が住める環境になっている。
- ③サケマス類の中でもニジマスが特に環境に強い魚であり、いても不思議はない。
- ④同じサケマス類でもイワナやヤマベは清流によく住む魚といわれており、環境に非常に敏感であるため、オンネトーから流れ出るこの川的环境では、なかなか生育し辛いのではないかと。
- ⑤魚類に関しては、今回はほとんど気にする必要のない工事になるのではないかと。

5.5 澤村 寛

- ①道路は雌阿寒岳溶岩の上を通っていくことになる。
- ②地形は、全体で見ると平坦だが、数メートルから十数メートルくらいの起伏、風穴が多く存在する。
- ③表面に見えるガラガラの構造のものが地下 50m 以上の厚さまである可能性がある。
- ④地下に風穴のような穴があった場合、道路をささえる地盤としてそれほど強くない。
- ⑤穴を詰めたり、強さを出すための工夫が必要かもしれないが、その場合、水に対して影響が出る恐れがある。
- ⑥来年度のボーリング調査結果より、いろいろな課題が出てくるのではないかと。

5.6 加賀谷誠一（座長）

- ①素人的な考えでは、今までの説明を聞く中では問題ないものと感じている。
- ②この道路は避難路ということが目的だが、国立公園の一部を通るということで、最大限貴重な自然環境へ配慮していくことが必要となる。
- ③平成 29 年度もしっかり調査をしていただき、新しい知見のもとでいろいろ議論していく必要がある。
- ④この懇談会をある程度オープンにし、市民参加型にして、いろいろな方に聞いていただき、意見を出していただくということも方法の一つではないかと。

6.1 質疑応答

持田 誠：

環境省の方もオブザーバーで来て頂いていますので、教えて頂きたいことがある。

国立国定公園において、平成 27 年度から指定植物の選定方針の見直し改定作業が進んでいると思われる。今回の調査結果も反映されていくものだと思うが、阿寒国立公園地域において見直し作業の進捗はどうなっているでしょうか？

安藤 祐樹：

平成 27 年度から順次進められていますが、現在、阿寒国立公園においては、特段作業は進んでいない。この調査で得られた情報も参考にしながら、当初の見直しを進めてきたいと思っています。

持田 誠：

国立公園の指定植物の見直しの参考になるということなので、やはりこの機会にヒカリゴケ以外の蘚苔類のフロラをしっかりと調査した方が良いと思います。

千嶋 淳

持田さんに教えて頂きたいことがあります。

風穴を避ける道路を作ったとしても、舗装道路は夏に路温が上がります。それにより風穴やその周りの植生への影響は明らかにされているのでしょうか？

持田 誠

直接、風穴周辺の温度が上がった場合において、植物に対しての変化は確かヨーロッパで 1 件の研究結果があったように記憶しています。

風穴周辺の温度の変化によっての植生の変化の報告というのは日本ではあまり聞いたことがない。風穴周辺は森林性のミズゴケや藻類森林性藻類が生えて来るので、多少の環境変化によって水辺の苔が影響を受けることは多々あると思われる。

ヒカリゴケについては、水分条件というより光条件が効いてくるとの事例報告もあり、今回の工事によって遮へいなど光条件の変化があった場合には退行等が懸念される。

7. その他、今後の予定（事務局）

- ① ヒカリゴケについて中間報告で学芸員の方からご意見いただいた中で、足寄町の教育委員会の方に情報提供し、懇談会前までに結論いただければと思っていたが間に合わないということで、来週足寄町としてヒカリゴケをどうするかという方向性をいただけるということになっています。また道の環境部署の方にも情報提供しており、今後も情報提供を続けていくということで話をしています。
- ② 懇談会の設置要領では、懇談会の任期が平成 29 年 3 月 30 日までとなっている。来年度春の環境調査が終わった 7～9 月に新たな懇談会において環境調査の結果報告をしたいので、タイミングを見て各所属等の方に推薦依頼等をお願いしていききたいと思っています。
- ③ 来年度は一年を通した環境調査を終えた後、道路の設計を進めて行きたいと思っている。3 月の 1 年後を目途に来年度第 1 回目の懇談会を開き、道路設計等のご報告をしたいと思っています。